

## インターバンクの声（2015年10月27日）

夏の中国経済の後退懸念から世界的な株安になって以降、中国当局が打ってきた金融政策は何をやっても効果が薄かったような印象だが、さすがに週末の利下げはある程度の効き目があった。ところが、その効き目も長くは続かず、ドル円は121円台中盤、ユーロが1.10ドル、豪ドルが0.72ドル前後までの調整で止まってしまった。週末と同じ反応が改めて見られるのか、それとも反転するのかは、いよいよ米連邦公開市場委員会（FOMC）と日銀金融政策決定会合の結果次第になってきたが、市場はもっぱらFOMCの利上げ判断と日銀会合の追加緩和はともに見送られると見ているようだ。当然、そうした思惑とは違った結果になれば意外な相場展開になることも予想され、日本時間の木曜日早朝（午前3時）のFOMCと金曜日の昼頃に発表される日銀会合に対しては、最近の米雇用統計発表時以上の注目が集まりそうだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。